

北っ子 敷島北小学校だより

令和5年8月30日 文責 学校長 増坪広夫

2学期が始まりました

8月29日（火）の朝、学校には38日間の夏休みを終え、一段とたくましくなった子供たちが元気よく登校してきました。きらきらとした笑顔で久しぶりに会った友達と話をしている姿を見かけ、楽しく充実した夏休みであったことが伺えました。その夏休み中ですが、特に大きなケガや交通事故といった連絡は一つもありませんでした。夏休み中の御家庭での指導に感謝いたします。



新学期のスタートでは、各クラスで子供たちは「2学期のめあて」や「がんばりたいこと」を、みんなの前で発表したり教室に掲示したりします。目標やめあては学校生活に限ったものではありません。新学期を1つの節目として「こんなことが達成できたらどんなにいいだろう」とワクワクするような目標を立てられることを期待しています。また、学校はたくさんの友だちと過ごしているわけですから、クラスみんなで力を合わせなければ達成できない目標も良いと思います。クラスの一人だけが頑張れば達成できてしまうものではなく、クラスみんなが力を合わせて初めて「うまくいった」と思えるような目標をクラスみんなで共有してほしいです。

親子でPTA 奉仕作業

8月26日（土）にPTA親子早朝作業が行われました。校庭の草取りなどを中心に敷地内の環境整備をしましたが、たくさんの親子の皆さんに参加していただき感謝いたします。お陰様で校庭がきれいになり運動会にむけての準備が整いました。



「できる」ことを「できない」と思わない

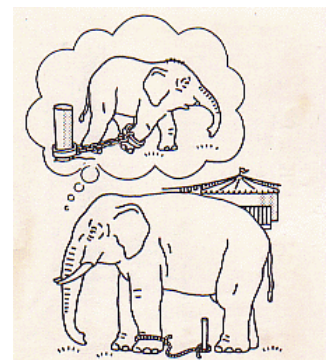
2学期の始業式では、校長から、こんな話をしました。

有名な逸話に「サーカスの象」というのがあります。

サーカスの象はロープで杭につながれてじっとしています。杭を引っ張って抜くだけの力を持っているのに、なぜその力を発揮して逃げ去らないのでしょうか。答えは簡単。

「自分にはたいした力がない」と思い込んでいるからです。

象は子供のころ、鎖で杭につながれて毎日を過ごします。小さいのでたいした力がなく、杭を引っ張って抜くことができません。象は大きくなってからも、その思い込みにとらわれ続けます。調教師はそれを知っているから、鎖のかわりにロープを使って象を杭につなぎとめます。大きな象にとって杭を引っ張って抜くくらいはたやすいはずですが、しかし、象は「自分にはたいした力がない」と思い込んでいるから、何もせずにじっとしているのです。



※「自分を磨く方法／著：アレクサンダー・ロックハート」より抜粋

学習方法は、どのタイプ？

コツコツ型

ポイント学習型（ヤマをはる）

一夜漬け型

勉強だけが人生ではない

以前、教育研究集会の講演会で聞いた話ですが、千葉大学の教授が千葉県内の中学2年生約900人を対象に調査をしたそうです。さて、この質問に対して一番多かった回答は何だと思いますか？

なんと半数近くの子が「勉強だけが人生ではない」を選んだそうです。

「勉強だけが人生ではない」という考え方を否定するわけではありませんが、その数の多さに驚きました。多様性が求められる時代とはいえ、私が中学生だった頃とはずいぶん傾向が違うと感じます。

ちなみに、教授によると小学生の頃はコツコツ型が、中学生ではポイント学習型が望ましいそうです。ちなみに私は「ヤマをはる」タイプでした。皆さんはどのタイプでしょうか。

勉強って何のためにするの？

教育者にとって永遠のテーマのように聞こえます。

諸説あると思いますが、始業式での校長の話を一部抜粋します。

勉強すると自分の中に【たからもの】がたまります。

この【たからもの】とは【能力】のことで【知識】ともいいます。

【能力】は身に付けたいという意欲と努力があれば、いくらでも自分の中に貯めこむことができます。

「やる気さえあれば、誰でも能力持ちに必ずなれる」ということです。

この「能力」をカードに例えて「言葉」を表現するゲームをするとしたら…

◆ 3枚しかカードがないと、少ししか表現できない。

か ず あ → 「かず」「あか」

◆ 5枚にカードが増えると、たくさん表現できる。

か ず あ き ん → 「かき」「あん」「あずき」「ずかん」「あきかん」「あかずきん」…

能力を豊かに持つ人は、豊かに表現できる → 未来の選択肢が増える

自分がいろいろな表現（職業・仕事）ができるようになるので、生活が楽しくなるのです。

小学校の今が、まさに、その能力をたくさん貯める時です。

自主学習のススメ

本校の子供たちは、家庭学習に毎日取り組んでいます。その中には自主学習も含まれますが、「取り組む」「取り組まない」まで自主的というわけではありません。基本的には家庭学習として毎日決められた時間取り組んでほしいと担任は思っています。

「何に取り組んだらいいのだろう？」そんなことを迷ってしまう子もいるようですが、考えようによっては「学習内容を考える」ところからすでに自主学習はスタートしているのかもしれません。

小学生の場合、学習効果を高めるには予習よりも復習に時間を割く方がよいと言われています。学習内容を考えることに困った時には、他の子の取組を紹介したり、メニューを案内したりしています。それでも行き詰まった時には、教科書の視写をおすすめします。いわゆる「丸うつし」です。単純ですが国語や社会では大きな効果が期待できます。

